都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

2026年度入学生カリキュラム（1年次）

（鍼灸師科　午前・午後コース　3年制）

科目区分	授　業　科　目	授業単位数	うち実務教員による授業	授業単位数	うちシラバス添付	授業単位数	備考
講義	基礎演習	2	○	2			
講義	コミュニケーションスキルⅠ	2	○	2			
講義	コミュニケーションスキルⅡ	2	○	2			
講義	保健体育Ⅰ	4	○	4	☆	4	
講義	解剖学Ⅰ	2	○	2			
講義	解剖学Ⅱ	2	○	2			
講義	生理学Ⅰ	3	○	3			
講義	解剖生理学Ⅰ	1	○	1			
講義	衛生学・公衆衛生学	2	○	2			
講義	医療概論	1	○	1			
講義	経路経穴概論Ⅰ	2	○	2			
講義	東洋医学概論Ⅰ	3	○	3			
講義	基礎はり学・基礎きゅう学	1	○	1			
講義/実習	触擦解剖学	1	○	1			
講義	社会あはき学Ⅰ	1	○	1			
実習	基礎はり実技	2	○	2			
実習	基礎きゅう実技	2	○	2			
実習	認定実技(OSCE)Ⅰ	1	○	1			
総授業時数		34		34		4	
卒業に必要な授業時数		98					

2026年度　シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース	学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	保健体育Ⅰ	必修・選択	必修	授業形態	講義	鈴木　勇気			
						時間数（単位）	30（2）	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

プロスポーツ現場で10年トレーナーの仕事を経験した体育学修士と医療資格を持った教員が、医療従事者の立場として、トレーナー現場の話を交えながら科学的根拠に基づいたかたちでトレーナーの知識・技術・経験などを学ばせていく。トレーナー現場での中高校生など育成年代のスポーツ選手や鍼灸院や整骨院などでのスポーツ疾患を持った患者に対応できるよう、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。

〔到達目標〕

中高校生など育成年代の部活動やスポーツチームで現場の高いニーズに応えてフルタイムでトレーナー活動が出来るようになること。

〔使用教材、参考文献等〕

トレーニング指導者テキスト(理論編)(実践編)、ストレングス&コンディショニングⅠ(理論編)Ⅱ(エクササイズ編)ファンクショナルトレーニング、MOVEMENT、走動作のファンクショナルトレーニング

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	講義の概要とトレーナーとして必要なことや不可欠な要素	トレーナーの必要性や重要性が理解できる。
2	パートナーストレッチングの必要性と方法	パートナーストレッチングの必要性を理解するとともにパートナーストレッチングが模倣・指導できる。
3	パートナーストレッチングの確認テスト(実技)	パートナーストレッチングの確認テストを実施する。
4	クーリングダウン及び静的ストレッチングの必要性と方法	静的ストレッチングの必要性を理解するとともに静的ストレッチングが模倣・指導できる。
5	静的ストレッチングの確認テスト(実技)	静的ストレッチングのテストを実施する。
6	ウォーミングアップ及び動的ストレッチングの必要性と方法	動的ストレッチングの必要性を理解するとともに動的ストレッチングが模倣・指導できる。
7	動的ストレッチングの確認テスト(実技)	動的ストレッチングのテストを実施する。
8	自重の筋トレ(スクワットやランジ、腕立て伏せ、アニマルフロー)の必要性と方法	自重の筋トレの必要性を理解するとともに自重の筋トレが模倣・指導できる。
9	道具(バランスボール、ストレッチポール)を用いたトレーニングの必要性と方法	ストレッチポールの必要性を理解するとともに、多くのトレーニングが模倣・指導できる。
10	ストレッチポールを用いたエクササイズの確認テスト(実技)	ストレッチポールを用いたエクササイズのテストを実施する。
11	道具(セラバンドやゴムチューブ)を用いたトレーニングの必要性と方法	セラバンドやゴムチューブの必要性を理解するとともに、多くのトレーニングが模倣・指導できる。
12	スポーツにおける栄養・休養の必要性と方法	栄養・休養の必要性を理解するとと食事・休養の必要性などを指導できる。
13	トレーニング施設の管理・運営①(スポーツジム)	スポーツジム施設の安全及び環境の配慮、運営の際に考慮すべき事項を理解できる。
14	トレーニング施設の管理・運営②(トレーナールーム)	トレーナールームの環境配慮、運営の際に考慮すべき事項を理解できる。
15	中間テスト	筆記テスト

〔成績評価について〕

評価は確認テストと筆記試験などにより採点を行い、合計100点で評価する。合計4回行なう実技確認テストは、各回10点満点とし、筆記試験は60点満点とする。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。わからないことがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。

2026年度　シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース	学年	1	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	保健体育Ⅰ	必修・選択	必修	授業形態	講義	鈴木　勇気			
						時間数（単位）	30（2）	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

プロスポーツ現場で10年トレーナーの仕事を経験した体育学修士と医療資格を持った教員が、医療従事者の立場として、トレーナー現場の話を交えながら科学的根拠に基づいたかたちでトレーナーの知識・技術・経験などを学ばせていく。トレーナー現場での中高校生など育成年代のスポーツ選手や鍼灸院や整骨院などでのスポーツ疾患を持った患者に対応できるよう、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。

〔到達目標〕

中高校生など育成年代の部活動やスポーツチームで現場の高いニーズに応えてフルタイムでトレーナー活動が出来るようになること。

〔使用教材、参考文献等〕

トレーニング指導者テキスト(理論編)(実践編)、ストレングス&コンディショニングⅠ(理論編)Ⅱ(エクササイズ編)ファンクショナルトレーニング、MOVEMENT、走動作のファンクショナルトレーニング

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	講義の概要とテーピングの概要	テーピングの基礎的な内容が理解できる
2	足関節の触診の復習とテーピングの切り方	テーピングの切り方のコツをマスターできる
3	アンダーラップの使い方と巻き方①	アンダーラップの巻き方のコツをマスターできる
4	アンダーラップの使い方と巻き方②	アンダーラップの巻き方のコツをマスターできる
5	アンダーラップテスト(実技)	アンダーラップの確認テストを実施する
6	アンカーテープとステアアップ	ステアアップまでの巻き方のコツをマスターできる
7	ホースシュー、ヒールロック、フィギュアエイト	フィギュアエイトまでの巻き方のコツをマスターできる
8	足関節内反捻挫予防(片脚)の確認テスト(実技)	足関節内反捻挫予防テーピング(片脚)の確認テストを実施する
9	足関節捻挫に対する応用テーピング①(サッカーテーピング)	足関節捻挫のテープ(応用①)を巻くことができる
10	足関節捻挫に対する応用テーピング②(底背屈制限)	足関節捻挫のテープ(応用②)を巻くことができる
11	足関節内反捻挫予防(両脚)の確認テスト(実技)	足関節内反捻挫予防テーピング(両脚)の確認テストを実施する
12	足関節捻挫に対する応急処置のやり方①	RICE処置の必要性を理解するとともに圧迫が模倣・指導できる
13	足関節捻挫に対する応急処置のやり方②	RICE処置の必要性を理解するとともにアイシングが模倣・指導できる
14	アイシングの確認テスト(実技)	アイシングの確認テストを実施する
15	期末テスト	筆記テスト

〔成績評価について〕

評価は確認テストと筆記試験などにより採点を行い、合計100点で評価する。合計4回行なう実技確認テストは、各回10点満点とし、筆記試験は60点満点とする。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。わからないことがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。

都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

2025年度入学生カリキュラム（2年次）

（鍼灸師科　午前・午後コース　3年制）

科目区分	授　業　科　目	授業単位数	うち実務教員による授業	授業単位数	うちシラバス添付	授業単位数	備考
講義	保健体育Ⅱ(放送大学)	2					
講義	栄養学(放送大学)	2					
講義	生理学Ⅱ	1	○	1			
講義	解剖生理学	1	○	1			
講義	運動学	1	○	1			
講義	病理学概論	2	○	2	☆	2	
講義	臨床医学総論	2	○	2			
講義	臨床医学各論Ⅰ	2	○	2			
講義	リハビリテーション医学Ⅰ	1	○	1			
講義	保険の仕組みと職業倫理	1	○	1			
講義	経絡経穴概論Ⅱ	1	○	1			
講義	東洋医学概論Ⅱ	1	○	1			
講義	はりきゅう治効理論	1	○	1	☆	1	
講義	東洋医学臨床論Ⅰ	2	○	2			
講義	病態生理学	1	○	1			
講義/実習	検査測定学	1	○	1			
講義	社会あはき学Ⅱ	1	○	1			
実習	応用はり実技	2	○	2			
実習	応用はりきゅう実技	2	○	2			
実習	認定実技(OSCE)Ⅰ	1	○	1			
実習	臨床実習Ⅰ	2	○	2			
講義/演習	総合学習	2	○	2			
講義/演習	総合スポーツ演習Ⅰ	2	○	2			
総授業時数		34		30		3	
卒業に必要な授業時数		94					

2026年度　シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース	学年	2	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名						櫻井　恵司			
病理学概論		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数（単位）	30 (1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

鍼灸マッサージ師、NSCA-CPT／CSCSの資格を持ち、20年以上教育に携わる開業鍼灸師マッサージ師が、疾病によって起こる様々な変化、疾病の発生機序と転機についての講義を行う。座学での授業であるため、復習と予習を行って授業に臨んでほしい。

〔到達目標〕

病因、循環障害、病変、炎症、腫瘍、免疫、先天性異常の病態について理解し、自ら要点を整理し、国家試験レベルの知識を得ることを目的とする。

各章毎に配布するレジュメと国家試験過去問題を使用。
病理学概論【第2版】公益社団法人　東洋療法学校協会編　医歯薬出版

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 第1章 病理学とは 第2章 疾病についての基本的な考え	疾病の分類と自覚症状・他覚症状を理解できる。
2	第3章　病因　内因 素因	年齢、性の相違による発症しやすい疾患を理解できる。
3	内分泌	内分泌疾患を理解できる。
4	定期テストⅠ（小テスト） 外因　供給障害	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 ビタミン欠乏症を理解できる。
5	供給障害・物理的病因作用	ミネラル供給障害を理解できる。 温度の病因作用を理解できる。
6	物理的病因作用・化学的病因作用	放射線、気圧、粉塵の病因作用を理解できる。 主な医原病を理解できる。
7	定期テストⅡ（確認テスト） 化学的病因作用・生物学的病因作用	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 環境汚染と感染症を理解できる。
8	第4章　循環障害	重要なうっ血を理解できる。
9	貧血・出血・血栓・塞栓症	貧血・出血の分類と疾患、血栓の形成誘因を理解できる。
10	定期テストⅢ（小テスト） 塞栓症	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 塞栓症の種類を理解できる。
11	梗塞・水腫	梗塞の分類、水腫の発症機序を理解できる。
12	脱水症・ショック	一次性脱水症と二次性脱水症の相違、ショックの分類を理解できる。
13	第5章　退行性病変　委縮・変性	生理的委縮と褐色委縮を理解できる。 アミロイドーシス、ビリルビン代謝を理解できる。
14	定期テストⅣ（期末テスト） 黄疸	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 黄疸の分類、機序、所見を理解できる。
15	加齢と老化、生活習慣病を理解できる。	認知症、パーキンソン病の機序、症状を理解できる。

〔成績評価について〕

成績評価は4回の筆記試験で行う。
4回のテストの配点は小テスト計28点、確認テスト28点、期末テスト44点の合計100点とする。
配点は授業の進行により変更することがあり、その場合は事前に告知する。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

積極的に授業に参加し、毎授業後に復習を行うこと。自宅では配布するレジュメを理解するだけでなく、国家試験の過去問題の解答解説を行うこと。

FORMSで出題する問題を解答し、選択肢について理解すること。

◎定期試験前の学習だけでは、一時的、かつ表面的な理解にとどまり、国家試験レベルの習得度に到達することが難しい為、日々の学習が必要となる。

2026年度　シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース	学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名						櫻井　恵司			
病理学概論		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数（単位）	30（1）	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

鍼灸マッサージ師、NSCA-CPT／CSCSの資格を持ち、20年以上教育に携わる開業鍼灸師マッサージ師が、疾病によって起こる様々な変化、疾病の発生機序と転機についての講義を行う。座学での授業であるため、復習と予習を行って授業に臨んでほしい。

〔到達目標〕

病因、循環障害、病変、炎症、腫瘍、免疫、先天性異常の病態について理解し、自ら要点を整理し、国家試験レベルの知識を得ることを目的とする。

各章毎に配布するレジュメと国家試験過去問題を使用。
病理学概論【第2版】公益社団法人　東洋療法学校協会編　医歯薬出版

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 生活習慣病・壊死と死	胆石症、糖尿病、痛風、動脈硬化症を理解できる。 壊死の分類と心臓死・脳死・遷延性意識障害の定義を理解できる
2	第6章　進行性病変　肥大・再生	仕事肥大を理解できる。 再生の種類・再生能力・再生方法を理解できる。
3	定期テストⅠ（小テスト） 化生・移植	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 化生の意義と主な化生、移植の分類と拒絶反応を理解できる。
4	創傷治癒・異物の処理	創傷治癒の諸段階を理解できる。 異物の処理の種類を理解できる。
5	第7章　炎症　炎症反応・分類	炎症の発症機序を理解できる。 主座による炎症の分類と具体的な炎症を理解できる。
6	特異性炎	結核、梅毒を理解できる。
7	定期テストⅡ（確認テスト） 第8章　腫瘍	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 腫瘍組織の特徴と異型性を理解できる。
8	腫瘍	良性と悪性の特徴と相違、上皮性と非上皮性の特徴を理解できる。
9	腫瘍	前癌病変・転移について理解できる。 主な外因について理解できる。
10	定期テストⅢ（小テスト） 第9章　免疫異常・アレルギー	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 免疫応答の概要を理解できる。
11	免疫系の構成因子	主な免疫担当細胞と特徴を理解できる。 免疫アルブミンの種類と特徴を理解できる。
12	アレルギー・免疫不全	アレルギー型と疾患を理解できる。 後天性免疫不全症候群を理解できる。
13	自己免疫異常 第10章　先天性異常	主な自己免疫疾患と自己抗体を理解できる。 主な先天性代謝異常を理解できる。
14	定期テストⅣ（期末テスト） 形態異常・染色体異常	試験により効果測定を行い、習得度を確認できる。 主な染色体異常と標識染色体を理解できる。
15	胎児への影響・遺伝病	単一遺伝子異常の分類と疾患を理解できる。

〔成績評価について〕

成績評価は4回の筆記試験で行う。
4回のテストの配点は小テスト計28点、確認テスト28点、期末テスト44点の合計100点とする。
配点は授業の進行により変更することがあり、その場合は事前に告知する。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

積極的に授業に参加し、毎授業後に復習を行うこと。自宅では配布するレジュメを理解するだけでなく、国家試験の過去問題の解答解説を行うこと。

FORMSで出題する問題を解答し、選択肢について理解すること。

◎定期試験前の学習だけでは、一時的、かつ表面的な理解にとどまり、国家試験レベルの習得度に到達することが難しい為、日々の学習が必要となる。

2026年度　シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース	学年	2	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名						酒井　大輝			
はりきゅう治効理論		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数（単位）	30（1）	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、「鍼灸がなぜ効くのか」についてわかりやすく一般の方にも説明ができるようになるため、授業を展開する。東洋医学とともに発展してきた鍼灸という治療法は西洋医学的な医療従事者と相いれないと考えられてきたが、最近では西洋医学的なエビデンスの獲得が進み、さらに面白い治療になってきたと感じる。その理論を理解することで治療の幅が広がるため、進んで勉強してもらいたい。

〔到達目標〕

なぜ鍼灸治療が効果があるのかの生理学的作用を勉強し理解した後、自分で体験し言語化できるようになってもらう。

〔使用教材、参考文献等〕

はりきゅう理論[医道の日本社]

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	第8章　鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識 2.生体の調節　　1）運動の調節	運動調節の生理学が理解できる。
2	第8章　2）　内臓の調節	自律神経の生理学が理解できる。
3	第8章　3)感覚	神経線維と伝導路について理解できる。
4	第8章　4)熱傷	熱傷と炎症について理解できる。
5	第8章　5)体表の反応　8章テスト	トリガーポイントの特徴を理解できる。
6	第9章　鍼灸治効機序　全身性鎮痛	全身性鎮痛、特に下行性痛覚抑制系を理解できる。
7	第9章　鍼灸治効機序　脊髄分節性鎮痛 末梢性鎮痛	脊髄分節性鎮痛、末梢性鎮痛を理解できる。
8	下行性痛覚抑制系の復習　鍼通電の体験	下行性痛覚抑制系が理解できる。高頻度の鍼通電を体験する。
9	鎮痛小テスト　第9章　鍼灸治効機序　循環系と鍼灸 運動系と鍼	軸索反射を理解することができる。
10	第9章　鍼灸治効機序 消化器系と鍼・泌尿器系と鍼・リラクセーションと 鍼灸	消化管運動・下部尿路機能に鍼が及ぼす影響について理解できる。
11	第9章　生体防御系と鍼灸 第10章　鍼灸治効機序と臨床の接点	消化管運動・下部尿路機能に鍼が及ぼす影響について理解できる。
12	10章　鍼灸治効機序と臨床の接点　関連学説 8章復習　循環・消化器小テスト	関連学説を想像する。また8章の範囲を理解できる。
13	循環系・運動系・消化器系・泌尿器系・ リラクセーション・生体防御の復習	第9章　第10章の復習を行い、特に重要な範囲を理解することができる。
14	期末試験	鍼灸刺激の治効理論を理解できる 確認テストにより第8.9.10章の理解度を確認できる
15	期末試験　解答・解説　国試問題解説	期末試験の解答解説を行い、苦手な範囲を復習することができる。

〔成績評価について〕

評価はFormsで行う。
確認テスト（30点分）、課題（10点）、筆記試験（60点分）の合計100点で評価を行う。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行う。

都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

2024年度入学生カリキュラム（3年次）

（鍼灸師科　午前・午後コース　3年制）

科目区分	授　業　科　目	授業単位数	うち実務教員による授業	授業単位数	うちシラバス添付	授業単位数	備考
講義	解剖学Ⅲ	1	○	1			
講義	生理学Ⅲ	1	○	1	☆	1	
講義	臨床医学各論Ⅱ	2	○	2			
講義	リハビリテーション医学Ⅱ	1	○	1			
講義	関係法規	1	○	1			
講義	東洋医学特論	1	○	1			
講義	東洋医学臨床論Ⅱ	2	○	2			
講義/実習	東洋医学臨床実践	2	○	2			
講義/実習	特殊鍼灸療法学	1	○	1			
講義/実習	古典・経絡治療学	1	○	1			
講義	はきの適応診断学	1	○	1			
実技	認定実技(OSCE)Ⅱ	1	○	1			
実技	臨床はりきゅう実技	2	○	2			
実技	スポーツ鍼灸	2	○	2	☆	2	
実技	実践はりきゅう実技	1	○	1			
実習	臨床実習Ⅱ	2	○	2			
講義/演習	総合スポーツ演習Ⅱ	1	○	1			
講義/演習	総合基礎特講	2	○	2			
講義/演習	総合臨床特講	1	○	1			
講義/演習	卒業演習	1	○	1			
総授業時数		27		27		3	
卒業に必要な授業時数		94					

2026年度　シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース	学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	生理学Ⅲ	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数（単位）	30 (1)	授業回数	15
						今井　紀代子			

〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、医療の基礎となる生理学を各分野ごとに演習し、知識を深める授業を行う。

〔到達目標〕

医療系を志す者にとっての基礎となる科目であり、他の応用科目の礎となる内容であるため、しっかり理解を深める。

〔使用教材、参考文献等〕

生理学(医歯薬出版)、配布資料

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	第1章(生理学の基礎)の演習	生理学の基礎の分野について理解を深める
2	第4章(消化と吸収)の演習	消化と吸収の分野について理解を深める
3	第5章(代謝)の演習	代謝の分野について理解を深める
4	第8章(内分泌)を演習	内分泌の分野について理解を深める
5	第9章(生殖・成長と老化)の演習	生殖・成長と老化の分野について理解を深める
6	第10章(神経一般)の演習	神経一般の分野について理解を深める
7	第10章(自律神経)の演習	自律神経の分野について理解を深める
8	第13章(感覚)の演習	感覚の分野について理解を深める
9	中間テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
10	テスト返却。第6章(体温)の演習	体温の分野について理解を深める
11	第2章前半[循環(血液)]の演習	循環(血液)の分野について理解を深める
12	第14章(生体防御機構)の演習 第15章(身体活動の協調)の演習	生体の防御機構の分野、身体活動の協調について理解を深める
13	第2章後半[循環(心臓)]の演習	循環(心臓)の分野について理解を深める
14	第3章(呼吸)の演習	呼吸の分野について理解を深める
15	期末テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔成績評価について〕

評価は筆記試験で行う。中間テスト(35点)、期末テスト(50点)、小テスト(15点)の合計100点で評価する。期末テストは中間テストの範囲も含む。評価は学則規定に準ずる。
100点満点中で60点未満の者は再試験を1度実施する。再試験は15コマ分の全ての範囲で実施する。再試験は100点満点で60点以上の場合でも評価は60点扱いとする。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

必要に応じ、プリントを配布する。
既に一度学習したことのある内容になるため、教科書はもちろん、
これまでに学んだ際に使用したノート・プリント等を持参し活用すること。
単なる暗記でなく、内容を理解した上で記憶する習慣をつけてもらいたい。

2026年度　シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース	学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名						鳥海　崇			
スポーツ鍼灸		必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数（単位）	30（1）	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

スポーツ現場や治療院等で鍼灸施術経験のある専任教員が、スポーツ傷害について身体各部位で起こりうる疾患を想定し、評価の考え方・治療の考え方を習得する授業を行なう。 スポーツ鍼灸という分野であるが、一般患者にも通じる評価方法・治療法であることを考え受講してほしい。 応用実技であるため、今まで受講した他の授業を復習し、自ら考えるよう授業に臨んでほしい。

〔到達目標〕

スポーツ鍼灸の考え方を学び、治療までの流れを習得する。
評価の流れを考え、模倣できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

鍼灸マッサージ師のためのスポーツ東洋療法(医道の日本社)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	臨床実習	臨床実習について理解できる。
2	運動鍼の方法と実践①	いくつかの運動鍼の方法を理解できる。自動運動による運動鍼を実践できる。
3	運動鍼の方法と実践②	他動運動による運動鍼を実践できる。
4	M-testについての考え方と実践①	M-testの考え方を理解できる。
5	M-testについての考え方と実践②	M-testの考え方を理解し実践できる。
6	頭板状筋・頚板状筋・肩甲挙筋の低周波鍼通電	板状筋・肩甲挙筋の走行を理解し刺鍼できる。
7	頚部のスポーツ疾患　評価と治療(筋への局所治療)	頚部の評価方法を実践し、筋への治療を模倣できる。
8	頚部のスポーツ疾患　評価と治療(関節への局所治療)顔面神経・斜角筋群の低周波鍼通電	頚部の評価を実践し、関節への治療を模倣できる。顔面Nの走行・斜角筋の位置をを理解し刺鍼できる。
9	確認テスト	テストにより効果測定を行い、習得した技術と知識の確認を行ない、技術練習の必要性を理解できる。
10	肩部のスポーツ疾患　評価と治療(筋への局所治療)肩甲帯筋の低周波鍼通電	肩部の評価方法を実践し、筋への治療を模倣できる。
11	肩部のスポーツ疾患　評価と治療(筋への局所治療)三角筋・大菱形筋・小菱形筋の低周波鍼通電	三角筋の走行を理解し刺鍼できる。菱形筋の位置を理解し安全に刺鍼できる。
12	肩部のスポーツ疾患　評価と治療(筋への局所治療)	肩部の評価方法を実践し、筋または関節への治療を模倣できる。
13	スポーツ東洋療法 女性とスポーツについて	女性とスポーツの関係について知る。
14	肩部・上肢スポーツ疾患 評価と治療(関節への局所治療)(評価をふまえた局所治療)胸郭出口症候群(TOS)の考え方　評価と治療	肩部の評価方法を実践し、関節への治療を模倣できる。
15	上肢の低周波鍼通電	上腕二頭筋・上腕三頭筋と前腕筋群の走行を理解し刺鍼できる。

〔成績評価について〕

評価は実技試験で行う。試験は3回確認テスト(各50点)を行い、そのうち点数の高い2回分の点数でで評価する。評価は学則規定に準ずる。
＊上記テストについては原則、レポート課題提出とその評価が6割以上の評価を得られたもののみ採点を行う。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

リスクを考えた上で授業に取り組むこと。リスクが少しでも考えられる刺鍼は必ず担当教員のアドバイスを求めること。

2026年度　シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース	学年	3	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名						鳥海　崇			
スポーツ鍼灸		必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数（単位）	30（1）	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

スポーツ現場や治療院等で鍼灸施術経験のある専任教員が、スポーツ傷害について身体各部位で起こりうる疾患を想定し、評価の考え方・治療の考え方を習得する授業を行なう。 スポーツ鍼灸という分野であるが、一般患者にも通じる評価方法・治療法であることを考え受講してほしい。 応用実技であるため、今まで受講した他の授業を復習し、自ら考えるよう授業に臨んでほしい。

〔到達目標〕

スポーツ鍼灸の考え方を学び、治療までの流れを習得する。
評価の流れを考え、模倣できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

鍼灸マッサージ師のためのスポーツ東洋療法(医道の日本社)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	股関節のスポーツ疾患　評価と治療(筋への局所治療)梨状筋・坐骨神経の低周波鍼通電	股関節の評価方法を実践でき、梨状筋の走行・深さを理解し刺鍼できる。坐骨神経の刺鍼部位を理解し刺鍼できる。
2	股関節のスポーツ疾患　評価と治療(筋への局所治療)	股関節の評価方法を実践し、筋への治療を模倣できる。
3	股関節のスポーツ疾患　評価と治療(関節への局所治療と遠隔治療)	股関節の評価方法を実践し、局所・遠隔治療を模倣できる。
4	腰背部のスポーツ疾患(筋への局所治療)	腰背部の評価方法を実践し、筋への治療を模倣できる。
5	腰背部のスポーツ疾患(関節への局所治療)	腰背部の評価方法を実践し、関節への治療を模倣できる。椎間・仙腸関節の理解し刺鍼できる。
6	腰背部のスポーツ疾患	股関節の動作改善を合わせた腰背部の治療を模倣できる。
7	膝関節のスポーツ障害(腸脛靭帯炎・鵞足炎)	膝関節の慢性障害を理解し、対応する筋に治療を模倣できる。
8	確認テスト	テストにより効果測定を行い、習得した技術と知識の確認を行ない、技術練習の必要性を理解できる。
9	膝関節のスポーツ疾患(筋への局所治療)	膝関節の評価方法を実践し、筋への治療を模倣できる。
10	膝関節のスポーツ疾患(筋・関節への局所治療)	膝関節の評価方法を実践し、関節への治療を模倣できる。
11	膝の慢性疾患における鍼灸治療と考え方	膝OAに関する考え方を理解し、治療法とセルフエクササイズの指示を模倣できる。
12	足関節・下肢のスポーツ疾患長腓骨筋・短腓骨筋の低周波鍼通電	足関節・下肢の評価方法を実践し、局所治療を模倣できる。
13	スポーツ鍼灸と全身治療①	全身治療の方法を実践できる。
14	スポーツ鍼灸と全身治療②	全身治療の方法を実践できる。
15	確認テスト	テストにより効果測定を行い、習得した技術と知識の確認を行ない、技術練習の必要性を理解できる。

〔成績評価について〕

評価は実技試験で行う。試験は3回確認テスト(各50点)を行い、そのうち点数の高い2回分の点数でで評価する。評価は学則規定に準ずる。
＊上記テストについては原則、レポート課題提出とその評価が6割以上の評価を得られたもののみ採点を行う。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

リスクを考えた上で授業に取り組むこと。リスクが少しでも考えられる刺鍼は必ず担当教員のアドバイスを求めること。